2016 年 10 月 30 日(日)「弦楽四重奏クラシックコンサート」

毎年お楽しみ頂いております秋の演奏会、今年はクァルテット・MIYABI の皆さんをお迎えして開催いたしました。

演奏は多くの人に親しまれ愛されている作品「アイネ クライネ ナハトムジーク」で始まりました。当日の演目は、次の５作品です。

モーツァルト：アイネ クライネ ナハトムジークより第１楽章
ハイドン：弦楽四重奏曲第 49 番「蛙」より第４楽章
ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第１番より第４楽章
ブラームス：ハンガリー舞曲第５番
バルトーク：弦楽四重奏曲第４番

弦楽器の奏でる心地よい音、はたまた打楽器のようなポンポンという意外な音など様々な音色に浸った 2 時間でした。

演奏の合間に楽器の紹介や楽曲の解説がされました。各楽器の役割を家の造りになぞらえて土台（チェロ）柱（ヴィオラ）壁（セカンドヴァイオリン）外観（ファーストヴァイオリン）としたお話も分かりやすく理解できました。
そのあとクイズが出され、誰もが知っている童謡をチェロ→ヴィオラ→セカンドヴァイオリン→ファーストヴァイオリンの順に音が重ねられて演奏されました。土台や柱だけではどんな家なのか分からなかったのですが、壁のところで早くも正解が出ました。お見事です。演奏曲は「とんぼのめがね」でした。

最後はバルトークの弦楽四重奏曲第４番 全楽章です。バルトークは近現代の作曲家で、この作品はロックのような熱さがあると紹介されました。時に力強く、生演奏の迫力がひしひしと感じられました。「カッコ良かった」「ロックみたいなクラシックがあったんですね」などの感想もいただきました。

アンコールでは懐かしい童謡のメロディに緊張感が解け、思わず胸に迫るものがありました。

会場は演奏者と客席の距離が近く、前の方の席は間近で生演奏がみられるとう事で特に人気がありました。

後方には今回のイベントに関連した図書資料が展示され、休憩の間など多くの方にご覧いただきました。